

本部だより

●第 21 号



マーシャル方面遺族会

●環礁・本部だより第 21 号 ●発行日：平成 22 年 2 月 1 日 ●発行人：黒川誠
●マーシャル方面遺族会本部：〒142-0051 東京都品川区平塚 3-4-17
●電話 03-3783-8382 ●FAX03-6410-4420 ●振替番号 00100-0-93487



朝日を受けて翻えるマーシャル諸島共和国の国旗(グレッグ・ドボルザーク氏撮影)

謹賀新年

平成二十二年



本部役員及び篤志会員

相談役

大給湛子

会長

黒川 誠

常任幹事

荒木常子

幹事

高林芳夫

山口良二

草場寛

晝間志津子

岡野智津子

監査役

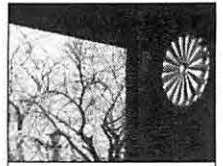
内海淑子

篤志会員

徳原徳子

山村 要

グレッグ・ドボルザーク



平成二十二年 度

慰霊祭・総会・直会の「ご案内

会員、会友の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年の慰霊祭・総会・直会を次の通り行います。

皆様お誘い合わせてご参加下さいますよう、お待ちしております。

■慰霊祭

日 時 平成二十二年四月三日(土) 午前九時受付開始(当日は日曜日ではありません。くれぐれもお間違いなくご予約下さい)。

受付 靖国神社参集殿前 本封筒をご持参の上、出席名簿とご照合下さい。専用のワッペンをお貼りになった方のみが昇殿参拝出来ます。

慰霊祭 午前十時(ご本殿)

■定期総会

慰霊祭の後「靖国会館」前にて記念撮影の後、同館二階「偕行の間(東)」にて

正午より開催致します。

■直会(なおり)

総会終了後、その場所が会場となります。閉会は午後三時の予定です。

●お願い

◇同封の出欠はがきは、欠席の方も各項目にご記入の上、二月末日まで本部に到着するようにご投函下さい。

◇本会への年会費(三千元)、寄付金、直会費(一名四千五百円)、玉串料(一名五百円)は、同封の郵便振替用紙にて二月末日までにお送り下さい。

◇受付は毎年混雑致します。受付では現金の取り扱いは致しません。

●九段会館に宿泊希望の方へ

◇予約は本部にて済ませますが、三月二十日までに各自で直接お申し込み下さい。なお、宿泊費は八千九百九十円(一泊朝食のみ)です。夕食が必要な方は予約時に別途お申し込み下さい。

◇九段会館(電話03・3261・5521)

平成二十一年度マールシャル方面遺族会
永代神楽祭(命日祭)奉奏

本会の命日祭は、例年通り、七月十五日午後二時より、黒川誠会長、櫛崎馨、吉田正明、森井静子、佐藤知子、荒木常子、富田キミ、草場寛の皆さんが出席して滞りなく行われました。

平成二十一年度

全国戦没者追悼式

終戦記念日の八月十五日、東京・千代田区北の丸の日本武道館で、天皇皇后陛下のご臨席を仰ぎ、政府主催の「全国戦没者追悼式」が執り行われました。

追悼式には遺族ら、約六千人が参列し鎮魂の祈りを捧げました。

正午の時報を合図に、全戦没者の御冥福を祈って黙とうが捧げられ「天皇陛下のおことば」に引き続き、参議院議長、最高裁判所長官、戦没者遺族代表がそれ



ぞれ追悼の辞を述べられました。

その後、麻生総理を始め各界の代表、遺族代表が、戦没者を偲びつつ献花しました。

東京都戦没者追悼式

八月十五日、東京・文京シビックホールで追悼式が開催されました。

消防庁音楽隊の静かで流れるような演奏で開会され、正面祭壇には「追憶」の大きな文字で額が飾られて、それを囲むように生花が祭壇いっぱい埋め尽くすように作られていました。

都知事（代理）を始め遺族代表らの式辞、追悼文の奏上に始まり、折から武道館で行われている追悼式の「天皇陛下の

おことば」が黙祷に合わせて放送されました。終戦から今年で六十四年が過ぎ、参列者の多くは高齢者が大半を占めています。戦争の悲惨さを忘れることなく、この追悼式が永く続くように願って止みません。（黒川）

平成二十一年

「靖国神社秋季例大祭」、「御創立百四十年記念大祭」に参列して

十月十八日、中秋の好天氣に恵まれて靖国神社の秋例大祭が齊行される

参集殿に集まった大勢の参加者は神官の誘導により手水をつかって拝殿に案内されて着席する。

京極高晴宮司（平成二十一年一月七日に急逝された南部利昭前宮司の後任に京極氏が決定し、六月十五日付で第十代靖国神社宮司に就任）をはじめ、十余名の役職神官がいずれも白装束の正装で昇殿をする。

定刻の十時になり、拝殿の太太鼓が打ち鳴らされて式典が始まる。宮司の祝詞奏上、君が代の斉唱。勅使御幣物を奉しでの参向。國學院大生による、鎮魂歌、

靖国神社の歌を合唱と続き、宮司の御創立百四十年記念大祭記念行事の報告、さらには、奉賛の願い、謝礼の言葉で終わる。式典参加者一同の順次昇殿参拝で、例大祭は無事齊行されたが、御本殿の左右には、本会寄贈の錦旗が秋の陽光を受けて燦然と翻り、例大祭に錦上、花を添える風情と見受けられました。

私も同行の草場氏共に昇殿参拝して退下しました。（黒川）

お詫びと訂正

本誌二十号「寄付金」の欄において、左記の方々の実際寄付金は二千円であるところ、「五百円」と記してしまいました。関係諸氏へのお詫びを申し上げ、ここに訂正させて戴きます。

記

岩川あい（北海道）、神永栄子（茨城）、鈴木友季子・西森サツキ・柳沢弘子（神奈川）、綾部はつゑ（長野）、柳村摩耶子（高知）、片山玲子（熊本）、野平ヨネ（鹿児島）の九名の皆様。

マーシャル方面遺族会との出会い

徳原さんとグレッグさんに聴く

場所 横浜「陸風」

収録

平成二十一年十月二十四日

出席者

- 徳原徳子さん(篤志会員・ハワイ在住)
- グレッグ・ドボルザークさん(篤志会員・東京大学大学院情報学環・歴史学博士)
- 黒川誠(会長)
- 荒木常子(常任幹事)
- 岡野智津子(幹事)
- 内海淑子(監査役)
- 草場寛(幹事・記録)



グレッグ・ドボルザークさん

徳原徳子さん

◆自己紹介

黒川 「マーシャル方面遺族会が続く限り、トクハラご夫妻のご恩を決して忘れてはいけない」とは、浮田信家第二代会長の言葉ですが、このことは、佐藤宗丕第三代会長、そして私に至る無言の遺言と言えるでしょう。さらにグレッグ・ドボルザーク氏は、これからの現地慰霊巡拝に欠かすことの出来ない大切な方です。今回、ハワイから来日中の徳原さんとグレッグさん(*東京在住)をお招きして、日にちの都合のつく役員を加え、懇談の会を開くことが出来ました。短い時間ですが、よろしくお願い致します。

全員 よろしくお願ひ致します。

黒川 徳原さんとグレッグさんは初対面ですか。

徳原 そうです。初めまして。

グレッグ 初めまして。よろしくお願ひ致します。

黒川 まず、最初に私達の自己紹介から入りましょう。

私の弟、黒川三男は、ルオットで海軍の飛行整備兵(*755空)として玉砕しています。ルオットは、約四千の将兵が玉砕しています。当時二十四歳だったと思います。

◆父・荒木力次のこと

荒木 私の父、荒木力次(*第四測量)は、ブラウンで亡くなりました。五十二歳でした。父は、海軍の水路部に勤めていました。私の生まれる前から一年の半分は南のほうに出張していました。満州にも行っていましたが、急に呼び寄せられてそのまま帰って来ませんでした。

昭和十九年の二月二十四日が命日となっておりますが、何処で戦死したのか分



左より、岡野智津子さん、グレッグ・ドボルザークさん、徳原徳子さん、黒川誠会長、荒木常子さん、内海淑子さん

かりません。母の弟も父と同じところに勤めていましたからクエゼリンに行つて戦死しています。私が十九歳の頃です。父と叔父を失つて祖母と母と三人で売り食いをしていました。昭和二十八年頃から恩給が出るようになって、やっと一息つけるようになりました。

◆兄・岡野良之のこと

岡野 亡くなりましたのは、岡野良之(第六通信隊)と申します。主人(*岡野正文氏)の兄に当たりますが、遠い従兄妹で、小さいときから一緒に遊んだ親しい間柄でした。東京の軍令部に所属しておりました。クエゼリンに派遣されていた人達が日本に帰つて来たのと入れ替わつてクエゼリンに行きました。クエゼリンにおりましたのは、二年位だと思ひます。椰子の木陰で撮つた写真や絵を送つてくれて、こんな所だと知らせてくれました。海軍大尉で亡くなつております。二十四歳でした。主人も同じ海軍でしたが、国外には出ませんでした。兄は本当なら岡野家の跡取りですからずっと大切におま

つりしております。息子たちにもその意思を継いで貰いたいと思ひます。私も出来る限りこの遺族会のお手伝いをさせて戴きたいと思つています。

◆叔父・常見登のこと

黒川 内海さんのお父さんは慰霊碑の施工責任者で、「第一石材株式会社」社長の内海軍三氏です。ちなみに、霊璽簿の箱を担当されたのは、本会の副会長を務められた晝間楽平氏です。

内海 内海淑子と申します。クエゼリンで亡くなりましたのは私の叔父、常見登(*駆3136)です。母、内海静枝の弟です。弟は三人おりました、一番下でした。私が幼稚園の頃でしたでしょうか、昭和十七年に兵隊検査を受けました。足がちよつと悪かつたものですから、叔父を可愛がつっていた父は「きつと帰されてくるよ」と言っていました。そのままチチハルの工兵隊に入隊してしまいました。私たちは満州にいましたので、その後の消息は全然分かりませんでした。昭和十九年の初めに満州を發つていま



黒川誠会長

すから、クエゼリンに着いて一カ月もしないうちにクエゼリンのことはまったく分からないままに玉砕してしまつたのではないかと父も母も申しおりました。戦死公報を受けたのは満州から引き上げてからのことです。昭和二十一年の頃です。

◆浮田さんとの出会い

徳原 徳原徳子と申します。旧姓は山田です。私がマジユロに行きましたのは一九六五年です。主人（*イサム・トクハラ氏）と結婚したのが六十八年です。その後イバイに新居を移し、私はイバイで働き、トクハラはクエゼリンに通っていました。トクハラは軍人でも軍属でもなく、「グローバル・アソシエーツ」という建設請負会社の社員でした。

私はまだ日本国籍でクエゼリンには住めませんでした。

黒川 お二人の馴れ初めをお伺い出来ますか？

徳原 そうですね、トクハラが休暇でマジユロに来ていたとき、島で伝染病が発

生して二週間足止めを食っていた頃に、親交が深まりました。

その頃、浮田さんと佐竹さんが来島され、トクハラと私と「遺族会」との関係が出来るのです。

◆米国で生まれ、クエゼリンで育つ

グレッグ 私は昭和四十八年の生まれです。一歳頃に父の仕事の関係でクエゼリンに家族でフィラデルフィアから引越しました。

父の仕事は、RCAのミサイルリーダー関係のエンジニアでした。弟は一九七八年にクエゼリンで生まれています。ごく普通にアメリカ人としてクエゼリンに住んで、アメリカの学校に通いました。基地ですから私達は島外には余り出られませんでした。

クエゼリンでは十歳位まで過ごしました。クエゼリンは子供に取っては島全体が遊園地でした。七歳の時、勇気を出して自転車で島の端まで行ったとき、新しい発見をしました。それは赤い門が滑走路に建っていました。その門には英語で

「日本人墓地」という標識がありました。一体この平和な島に何があったのだろうかと感じ始めました。

その後、クエゼリンを離れてフィラデルフィアに一家で戻りましたが、赤い門のことが忘れられませんでした。クエゼリンに帰りたいと思い、マイクロネシア関係の人と頻繁に文通をしました。

◆日本に興味を持ち留学

グレッグ 高校二年生の夏休みに友人の先生に誘われて一か月島根県にホームステイに参加したことをきっかけに、何度も日本に留学しました。

黒川 日本語が上手ですが、その頃に覚えたのですか。

グレッグ そうです。日本軍のこともお世話になった家のお爺さんから沢山聞きました。

三年間国際交流員として働いた宮崎の南郷町が遠洋漁業の基地で、マグロ船がマーシャル諸島まで行くと聞いて因縁を感じました。

一九九九年にハワイ大学の太平洋諸島

学の修士課程を経て、オーストラリア国立大学大学院に入り、テーマとしてクエゼリンの歴史を選びました。

日本時代のマーシャル諸島とアメリカ時代のマーシャル諸島、そしてマーシャルの人々から見た歴史をもっと知りたいと思った結果です。

黒川 平成十七年の現地慰霊に同行されたのですね。

グレッグ そうです。まず、黒川会長にご挨拶をして、同年十月、一緒に現地慰霊に参加しました。久しぶりの里帰りでもない私が遺族の方々と親しくお話出来たのは貴重なものでした。

黒川 その節は通訳などお願いして、いろいろありがとうございました。

グレッグ 私こそありがとうございました。同行しながら皆さんに取材をさせて戴きました。

◆グレッグさん篤志会員に

黒川 本会の篤志会員だった松平永芳さんが亡くなられて欠員になっていた篤志

会員をグレッグさんにお願いました。ご了解を得ましたのでよろしくお願い致します。

徳原 それは大変力強いですね。よろしくお願い致します。

◆どうしてマジユロに？

徳原 昨年黒川さんにお目にかかったときに「どうしてマジユロに行くことになったのですか」と聞かれました。

私は「出稼ぎです」と答えましたね。遺族会とは四十年間もお付き合いして来ましたが、そのとき初めてそんな質問を受けました。

それまでどうして聞かれなかったのか不思議でしたが、以前から一人位本当のことを知っておいて貰いたいと思っていました。

岡野 興味深いですね。

徳原 いきなりマジユロに行ったのではありません。

「出稼ぎ」と言ったのはあながち冗談ではありません。私は丸の内の米国人が社長の貿易会社の社長秘書をしています

た。男性社会の日本より海外に出たほうがより良い生活が出来るという信念を持ち続けていましたから、外国行きのチャンスを狙っていました。

そんな折、昔同じ会社で働いていた男性と偶然に出会ったのです。彼は貿易会社を立ち上げて、ミクロネシアの島々と取引があると聞いて、現地に就職したいと斡旋をお願いしました。

初めは若い女性の気まぐれと取り上げてくださいましたが、私の執拗さに負けて取引先に手紙を書いてくれました。グレッグ それが大酋長のアマタ・ガブアさんの会社だったのですね。

◆「一通の手紙から」

徳原 ええ、そうです。会社名は「マーシャル・アイランズ・インポート・エクスポート社」でした。

一九六五年六月十六日から南の島の生活が始まりました。

紹介してくれた男性に会わなければマジュロに行くこともなく、そして浮田さんと会うこともなかったわけです。不思議

なご縁だと思っています。日本大使のジベ・カプアさんはアマタ・カプアさんの一人息子さんだそうですね。

グレッグ 昨年の慰霊祭に出席して戴きました。

徳原 「本部だより」を拝見して、可愛い坊やだった頃を思い出しました。とても懐かしかったです。お父さんにそっくりですね。

グレッグ 本当にそっくりです。

黒川 佐藤会長時代、徳原さんの存在は知ってはいたのですが、近寄りがたい存在でした。徳原さんの経歴だとか、どういいう経緯でマジュロに行かれたのか知らないものですから、今年の会食会でお伺いした訳です。

岡野 私も、大使のお母さんは日本人より日本人らしい方で、礼儀を大切にされた方だということを伺いました。今日になってやっと詳しいことが伺えるのはありがたいですね。

黒川 こういった機会でもないとなかなか伺うことはありませんから。

徳原 そして、浮田さん達と知り合うきっかけになるのですが、本誌（*二十号

「一通の手紙から」でご紹介戴きました。浮田さんからの最初の手紙は全然信用していませんでした。

なぜかと言いますと、会ったことも見たこともなく、若い人かお年寄りかわからない男性からの手紙でしょう、受け取っていきなり信用する程ナイーブじゃないですよ、その頃は。妄想ですけど右翼か左翼のグループが外国に勢力を伸ばすためのものじゃないかと思いました(笑)。

◆煎餅の効果

グレッグ 返事は書かれたのですか。

徳原 返事を書きました。手紙と一緒に小さな箱に入った煎餅が添えられていたのです。日本のものが懐かしいのと食いしん坊ですから食べちゃったのです(笑)。食べたからには返事を書かなくちゃ義理が悪いですからね。

原稿には「半信半疑」なんて書きましたが、百パーセント疑っていたのです。荒木 そうですよ。男性からいきなりですからね。

グレッグ その手紙は現地で手伝って下



荒木常子さん

徳原さん

グレググさん

さいという内容だったのですか。

徳原 そうではありませんでした。遺骨収集と慰霊のためにまったくツテがないので藁にもすがりたい気持ちで手紙を書いたという内容でした。事実であれば同情出来ないこともありませんでした。

◆慰霊の旅に同行

黒川 そうしたことがあって浮田さんと佐竹さんが遺族会から派遣されたのですね。

徳原 そうです。一九六七年でした。マジロをハブ（*中継地）にして他の島に行きたいということでした。それは精力的にマーシャルの方々の島を回られていました。

そしてタラワ、マキン、オーシャン、ナウルに行きたいということで、私が働いていた会社の船をチャーターされました。

そのとき、アマタ・カブア社長が「困ったことがあれば手伝うように」と私が同行することになりました。

それは私が希望したことではなくて、

社長命令でした。日本人が一度も行ったことのない所ですから嬉しかったですね。慰霊の旅に行くのに不謹慎でしたが。

困ったことなど何にもなくて、行く先々皆さん親切に迎えてくれました。

慰霊のためのチャーターでしたが、買付けの仕事などしてあまりお手伝いはしませんでした。

◆慰霊碑の設置

黒川 遺骨収集と木碑を建てる厳しい慰霊の旅で山田さん（*徳原さんの旧姓）にお世話になり、クエゼリンに主碑を日本で作ってクエゼリンに送った慰霊碑をトクハラさんの手で組み立てられたという訳ですね。

徳原 そうですね。木の慰霊碑を建てることに始まって、トクハラと結婚したことでクエゼリンに慰霊碑を建てる仕事を司令官に命じられました。

黒川 日本から送った書面や図面はすべてトクハラさんの手元に集まって、図面通りに建立するようにとのことだったのですね。

グレッグ それは仕事で請け負ったということではなかったのですか。

徳原 勤務外に行うまったくのボランティアでした。トクハラは現地の人を募集して船便で送られて来た慰霊碑を組み立てたのです。

ミラー 司令官の命令は、「日当は出せないけれど、軍の資材の一切を使っている」ということでした。

内海 荷揚げ風景から土台作りや仕上げまでを写真で拝見しました。

◆ミラー司令官の尽力

徳原 慰霊碑そのものは米軍の所有になるわけですから、建つても日本の遺族はお参りに行かれないわけですね。折角の慰霊碑ですから、トクハラ達の尽力が功を奏して入域の許可が下りましたが、最初の条件はとても厳しいものでした。

飛行機から降りてお参りが済んだらすぐにその飛行機に乗って帰らなければいけないというものでした。

司令官の最大の権限を使ってもその位のことしか出来なかったようです。しか

しミラー司令官の尽力により、前例が作られたということは、同司令官在職中の大きな功績です。その後司令官が変わっても、前例に従って優遇したようです。その頃からクエゼリンではミサイルは撃たなくなったこともあるかもしれませぬ。

グレッグ 全然ない訳ではありませんが、主要な島はメックです。

黒川 クエゼリンはミサイルの島ではなくなつて墓参は以前より緩やかになつたとはいえ、9・11以後は緊張した場面が多くなりましたね。前回はルオットでの演習があり、私達は行けませんでした。

◆偶然ではなく必然！

徳原 昔、私が横浜で同僚と会つた偶然は必然だつたのではないかと考えます。

それからずっと糸を引いて、何の障害もなく、誰からも妨害されないう慰霊碑の建立が成功して、遺族会の方々が墓参に行けることになって、遺族会の目的は全部果たされたわけです。

黒川 本当に徳原さんのお陰でした。

徳原 いいえ、それは私たちのお陰ではなくて「マーシャル方面遺族会」の方々の熱意と、戦死した方達の霊が導いて下さつたのではないかと思います。

荒木 父の手帳が戦地から戻つて来たのも不思議なことでした。

米軍が上陸したときに少年兵が落ちていた袋を開けたら寄せ書きをした日章旗と手帳が入っていたそうです。

その二つを同じ兵隊のものだと判断され、寄せ書きの文字を辿つて英国のほうまで周つたそうですが、何年かぶりに私の手元に戻つて来たのです。国に戻りたい一心ということがあるのだと思います。その手帳は、靖国神社の遊就館に収めてあります。

グレッグ それはあると私も信じます。まあ、霊的な話をするのは何ですが、六歳位のときに私の部屋で変なものを見えます。ずっと忘れていましたが、この研究をするようになって、クエゼリンにレスリーさんという考古学者がいらつしやるのですが、彼女が「幽霊の話を知ってる？」と聞かれて、知らないというところ、島では有名な話だそうで、子供の親がレ



岡野智津子さん



内海淑子さん

スリーさんに相談に来るのだそうです。「日本人の司令官の幽霊」を見るアメリカ人の子供が大勢いるそうです。私が自然に日本にひかれたのもそれが原因だったのではないかと思います。そ

してこの遺族会に関わることになったのも必然だったようです。

岡野 そうですか、何かあるのですね。私も小さいときから霊感が強かったほうでした。年とともに薄れて来ましたが、亡くなった兄さんのこともいつも傍に感じていましたし、戦争のことだけじゃなくとも予感がすると必ずそうになりました。グレッグ 佐竹さんのときも何か感じましたか。

岡野 もう亡くなっていらっしやるのですが、お会いして二回目の役員会があったとき、額に怪我をなさっていたので、「帰ったらすぐ病院に行ってよね」と言って別れたのですが、気になって皆さんにどうも変だと申し上げましたね。

内海 私が幼稚園のときでしたが、ずっと父は叔父のことを大変心配しておりました。満州でのことですが、ある寒い晩に「登が帰って来た」と言って飛び起きましたが、誰もいませんでした。玄関の前に立っていたと父が盛んに言い、最後は「死んだのかな」とぼつりと言ったのを思い出しました。

徳原 内海さんのお父さんは仕上がった慰霊碑はご覧になったのでしょうか。

内海 写真は浮田会長から載って見えますが、持病があつて現地慰霊には行けずに見ていません。

平成元年に父の遺影を持って母と私が参加して、父に見せました。

父は、慰霊碑を送ったけど、誰か分かってくれたのだからかっこいいものすごく心配してました。専門の人もいらっしやるだろうからとも言っていました。それがトクハラさんだったのでね。

◆結び

黒川 ボロボロになった「環礁」を読み返すと、当時の皆さんのご苦労が良く分かります。さらにこうして文章でない生のお話を伺うことは、本会を次世代に繋ぐ私たちの役目だと思います。

徳原さん、グレッグさん、今後とも機会を作って載って、本会へのご支援をお願い致します。本日はありがとうございました。

一同 ありがとうございます。■

マーシャル方面遺族会 平成22年～23年度行事予定表

年	月	日	曜	開始時間	場所	行事
22	1	2	土		靖国神社	平成23年度本会「慰霊祭」の申し込み
22	1	2	土		靖国会館	平成23年度「総会・直会」会場の申し込み
22	1	17	日	午前10時	平塚橋会館	「本部だより」21号の発送作業 他
22	3	5	金		九段会館	平成23年度「慰霊祭」参加者の宿泊予約
22	3	14	日	午前10時	平塚橋会館	平成22年度「慰霊祭」の準備会議 他
22	4	3	土		靖国神社	平成22年度本会「慰霊祭・総会・直会」開催
22	4	22	木		靖国神社	靖国神社「春季例大祭・当日祭」
22	5	16	日	午前10時	平塚橋会館	「本部だより」22号編集会議 他
22	5					千鳥ヶ淵墓苑拝礼式（期日未定）
22	6	13	日	午前10時	平塚橋会館	「本部だより」22号校正 他
22	7	5	月		九段会館	平成23年度「永代神楽祭」参加者の宿泊予約
22	7	15	木	午後2時	靖国神社	本会「永代神楽祭・命日祭」奉奏
22	7	18	日	午前10時	平塚橋会館	「本部だより」22号発送作業 他
22	8	15	日		日本武道館	全国戦没者追悼式
22	8	15	日		文京ホール	東京都戦没者追悼式
22	9	12	日	午前10時	平塚橋会館	「本部だより」23号編集会議 他
22	10	10	日	午前10時	平塚橋会館	「本部だより」23号校正 他
22	10	18	月		靖国神社	靖国神社「秋季例大祭・当日祭」
22	10					沖縄戦没者追悼式（東京都遺族連合会）
23	1	2	日		靖国神社	平成24年度本会「慰霊祭」の申し込み
23	1	2	日		靖国神社	平成24年度「総会・直会」会場の申し込み
23	1	16	日	午前10時	平塚橋会館	「本部だより」23号の発送作業 他
23	3	5	土		靖国会館	平成24年度「慰霊祭」参加者の宿泊予約
23	3	13	日	午前10時	平塚橋会館	平成24年度「慰霊祭」の準備会議 他
23	4	2	土		靖国神社	平成24年度本会「慰霊祭・総会・直会」開催